

第 22 章

カネの面から会社をみてみよう（掛谷純子）

1 はじめに

日頃ニュース等で、「A社が発表した決算では、純利益が前年同期比 7%増の 19 億円、売上高が 3%増の 1,395 億円となった」、「B社は、純利益が前期比 13%減の 96 億円、売上高は 10%増の 8,000 億円になる見込みだと発表した」などと取り上げられているが、このような情報は何をみればわかるだろうか。私たちの身近なカネの流れを知る手段として、お小遣い帳や家計簿があるのと同様、会社のカネの流れを知る手段として、財務諸表がある。財務諸表とは、会社のカネの流れを知ることができる書類であり、会社の、①カネを集める、②カネを投資する、③利益をあげる、といった活動にどれだけのお金が動いているかを説明したものである。たとえば、先に記載したニュース等で取り上げられている「売上高」や「利益」こそ、会計がその会社の活動状況を通じて集計したもので、これらの情報が財務諸表に記載されている。

主な財務諸表は、①貸借対照表、②損益計算書の 2 つである。これらによって、会社が①どれくらいの財産を保有しているか、②どれくらい儲けたか、がわかる。財務諸表は、会社のホームページ内にある IR 情報（「有価証券報告書」や「決算短信」）から入手することができる。

調べてみよう

- 会計を学ぶことにより、どんなことができるようになるだろうか。
- 財務諸表を見てみたい会社をいくつか挙げ、実際に会社のホームページで調べてみよう。

2 貸借対照表と損益計算書

2.1 貸借対照表と損益計算書

(1) 貸借対照表

貸借対照表とは、会社の財政状態を表すものである。貸借対照表には、資産、負債、純資産の項目がある。資産とは、現金、預金、建物、土地など、会社が所有する財産をいう。また、負債とは、借入金など他人に対する債務をいう。そして、資産と負債の差額が純資産である。

貸借対照表がどのようなものか、簡単な事例でみてみよう。たとえば、掛谷商店が自己資金 20 万円、銀行からの借入 30 万円で事業を始めたとする。それらの資金をすべて現金で保有している場合、

掛谷商店の財産を表す貸借対照表は次のようになる。

貸借対照表

資産	負債
現金 50 万円	借入金 30 万円
	純資産 資本金 20 万円

この貸借対照表の左側は、「掛谷商店には資産（現金）が 50 万円ある」ことを示している。そして、右側は「（資産 50 万円のうち）30 万円は負債（借入金）であり、残り 20 万円が純資産（資本金）である」ということを示している。なお、資本金とは、事業を始めたときの「元手」と考えよう。

(2) 損益計算書

損益計算書とは、会社の経営成績を表すものである。損益計算書には、収益、費用の項目が含まれている。

収益：もうけを増やすもの

費用：もうけを減らすもの

収益は総額、利益は差額の概念である。たとえば、掛谷商店が 40 万円で買って来た商品を 60 万円 で売った場合、60 万円が収益、そこから費用 40 万円を差し引いた 20 万円が利益となる。

損益計算書

収益 (+)	60 万円
費用 (-)	40 万円
もうけ	20 万円

(3) 貸借対照表と損益計算書のつながり

次に、「貸借対照表」と「損益計算書」がどのようなものか、さらに、それらがどのようにつながっているのかを大まかに理解していこう。

たとえば、掛谷商店が自己資金 20 万円、銀行からの借入 30 万円で事業を始めたとする。それらの資金をすべて現金で保有している場合、掛谷商店の財産を表す貸借対照表は次のようになる。

貸借対照表

資産	負債
現金 50 万円	借入金 30 万円
	純資産 資本金 20 万円

次に、掛谷商店が現金 50 万円で商品を仕入れ、それを 60 万円で販売し、現金で受け取ったとすると、損益計算書と貸借対照表は次のようになる。

損益計算書

収益 (+)	60 万円
費用 (-)	50 万円
もうけ	10 万円

貸借対照表

資産	負債
現金 60 万円	借入金 30 万円
	純資産
	資本金 20 万円 もうけ 10 万円

また、翌年に現金 60 万円で商品を仕入れ、それを 70 万円で販売し、現金で受け取ったとすると、損益計算書と貸借対照表は次のようになる。

損益計算書

収益 (+)	70 万円
費用 (-)	60 万円
もうけ	10 万円

貸借対照表

資産	負債
現金 70 万円	借入金 30 万円
	純資産
	資本金 20 万円 もうけ 20 万円

これまで、損益計算書と貸借対照表で「もうけ」という同じ言葉を使ってきたが、実は意味が異なっている。損益計算書の「もうけ」は、「その年のもうけ」、貸借対照表の「もうけ」は、「もうけの蓄積 (それまでどれだけもうけたか?)」を表している。したがって、2 年目が終了した掛谷商店の「もうけの蓄積」は、1 年目の「もうけの蓄積」10 万円に、2 年目の「もうけ」10 万円を加えた 20 万円となる。

2.2 貸借対照表

(1) 自己資本と他人資本

貸借対照表 (Balance Sheet 略して B/S) とは、ある一定時点での会社の資産の状態を表している。左側で会社がどのように資金を運用しているかということを表し、右側でどのように資金を調達したかを表している。

表 1 貸借対照表の例

資産		負債		他人資本
現金及び預金	10,000	借入金	40,000	
商品	5,000	純資産		自己資本
建物	50,000	資本金	50,000	
土地	35,000	利益剰余金	10,000	
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000	

表??のとおり、貸借対照表の要素として、①資産②負債③純資産がある。②負債と③純資産は、それぞれ他人資本と自己資本に分けられる。②負債は、他人から借りたものという意味で、他人資本といい、純資産は他人ではなく自分で出したもの（自分で儲けたもの）という意味で、自己資本と呼ばれる*1。

(2) 資産、負債、純資産とは

資産とは、会社が保有している経済的資源のことをいう。たとえば、現金、商品、建物、土地などである。

負債とは、会社が負うべき経済的負担のことである。たとえば、銀行からの借入金などがある。純資産とは、純資産は資産と負債の差額である。2.1 の設例では、掛谷商店の資本金ともうけの蓄積が純資産の項目であり、もうけの蓄積は利益剰余金とよばれる。

2.3 損益計算書

(1) 損益計算書とは

損益計算書（Profit and Loss Statement、略して P/L）とは、会社が 1 年間でいくら使っていくらもうけたか（またはいくら損したか）という利益（または損失）の状況を明らかにしたものである。会社がどれだけもうけたかを会社の経営成績といい、損益計算書は会社の経営成績を表すものである。

(2) 損益計算書の様式

2.1 でみたように、損益計算書では収益から費用を差し引いて利益を算定するが、利益にはいくつかの段階がある。表 2 のとおり、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を差し引いたものは営業利益とよばれ、これは会社の本業による利益である。また、最終的にいくらもうかったかを示すのが当期純利益である。ほかにもいくつかの種類の利益があるが、まずは営業利益と当期純利益を理解しておこう。

*1 自己資本にはいくつかの考え方があるが、ここでは自己資本＝純資産として考える。

表 2 損益計算書

①売上高（収益）	60 万円	（いくら売れたか）
②売上原価（費用）	40 万円	（60 万円で売った商品をもともといくらで仕入れたか）
③販売費及び一般管理費（費用）	10 万円	（人件費や広告宣伝費など、販売や管理のための費用）
営業利益	10 万円	① - ② - ③
……		（ほかにも収益や費用があるが、ここでは省略）
当期純利益	6 万円	（会社の最終的な利益）

話し合ってみよう

- グループ（ゼミ）で商売を始めると仮定し、掛谷商店の例を参考にして貸借対照表、損益計算書をつくってみよう。
- 会社の取引としてどのようなものがあるかを考えてみよう。そして、その取引が貸借対照表や損益計算書にどのような影響を与えるかを考えてみよう。

3 実際の財務諸表をみてみよう（資生堂 vs コーセー）

3 では、実際の事例を通じて財務諸表の数値をみていこう。

皆さんもご存知のとおり、化粧品業界のトップは資生堂、2 位がコーセーである。図 1、図 2 のとおり、資生堂の売上高は 1 兆 673 億円（2022 年 12 月期）、コーセーの売上高は 2,891 億円（2022 年 12 月期）となっており、資生堂の売上高はコーセーの売上高の 3 倍以上となっている。これらの数値は決算短信の 1 ページに記載されている。

2022年12月期 決算短信〔IFRS〕（連結）										
上場会社名 株式会社資生堂					上場取引所 東 京					
コード番号 4911					URL https://corp.shiseido.com/jp					
代表者（役職名） 代表取締役 会長 CEO					（氏名） 池谷 雅彦					
問合せ先責任者（役職名） IR部長					（氏名） 関根 綾子					
TEL) 03-3572-5111										
定時株主総会開催予定日 2023年3月24日					配当支払開始予定日 2023年3月27日					
有価証券報告書提出予定日 2023年3月24日										
決算補足説明資料作成の有無 有 (投資家・アナリスト等向け)										
決算説明会開催の有無 有 (投資家・アナリスト等向け)										
1. 2022年12月期の連結業績（2022年1月1日～2022年12月31日）										
（百万円未満切捨て）										
（1）連結経営成績（累計）										
（%表示は対前期増減率）										
	売上高	コア営業利益	営業利益	当期利益	親会社の所有権に 帰属する当期利益	当期包括利益				
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	百万円	%	
2022年12月期	1,009,966	51,340	46,572	27,360	24,202	89,041	△27.1	90,192	△1.3	
2021年12月期	1,009,966	42,553	100,571	49,450	46,909	90,192	—	90,192	—	
（参考）税引前利益	2022年12月期 50,428百万円（△49.1%）	2021年12月期 99,111百万円（-）								
（2）連結財政状態										
	資産合計	資本合計	親会社の所有権に 帰属する持分	親会社所有権 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者権属持分					
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭					
2022年12月期	1,307,661	625,754	604,259	46.2	1,512.36					
2021年12月期	1,300,939	562,179	540,695	47.6	1,353.45					
（3）連結キャッシュ・フローの状況										
	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高						
	百万円	百万円	百万円	百万円						
2022年12月期	46,735	△41,308	△52,418	119,036						
2021年12月期	134,249	69,733	△190,575	156,503						

図 1 決算短信の例（資生堂）

2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社コーセー
コード番号 4922 U R L https://corp.kose.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 一俊
問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 花倉 浩子 T E L 03-3273-1511
定時株主総会開催予定日 2023年3月30日 配当支払開始予定日 2023年3月31日
有価証券報告書提出予定日 2023年3月30日
決算短信送付開始の有無 有
決算説明会開催の有無 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期の連結業績 (2022年1月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

2022年12月期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期	289,136	—	22,120	—	28,394	—	18,771	—
2021年12月期	224,963	—	13,852	—	22,371	—	13,341	—
(注) 当増利益	2022年12月期	29,866百万円(+%)	2021年12月期	20,234百万円(+%)				

2022年12月期	平均	円	円	%	%
2022年12月期	329.00	—	7.5	8.4	7.7
2021年12月期	233.86	—	5.8	7.1	8.4

(参考) 持分法投資損益 2022年12月期 一百万円 2021年12月期 一百万円

(注) 前期は当社及び3月決算であった国内連結子会社は2021年4月1日から2021年12月31日まで、12月決算であった連結子会社は、2021年1月1日から2021年12月31日までを連結対象期間としています。そのため、対前期増減率を記載していません。

(参考) 下記%表示 (調整後増減率) は、前期業績を2021年1月1日から2021年12月31日とした増減率です。
売上高 営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)
268,992 7.5% 15,672 41.1% 22,050 28.8% 11,135 68.6%

(2) 連結財政状態

2022年12月期	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円	円	
2022年12月期	359,600	—	275,349	—	72.0	4,539.45	—	
2021年12月期	320,018	—	254,267	—	74.5	4,178.06	—	

(参考) 自己資本 2022年12月期 268,992百万円 2021年12月期 238,357百万円

図 2 決算短信の例（コーセー）

このように、決算短信の1ページには、財務諸表の代表的な数値が掲載されている。ここでは、決算短信の1ページに掲載されている数値だけで分析できる指標を紹介していく。

まず、貸借対照表の項目を使って分析を行ってみよう。先ほどの図1、図2をみると、資生堂の総資産は1兆3,077億円、純資産は6,258億円となっている(2022年12月期)。負債は総資産から純資産を差し引いたものになるので、資生堂の負債は6,819億円となる。

同様に、コーセーの総資産は3,596億円、純資産は2,753億円となっている(2022年12月期)ので、差額を求めると、負債は843億円となる。

これらを簡単な貸借対照表の図で表すと図3のようになる。

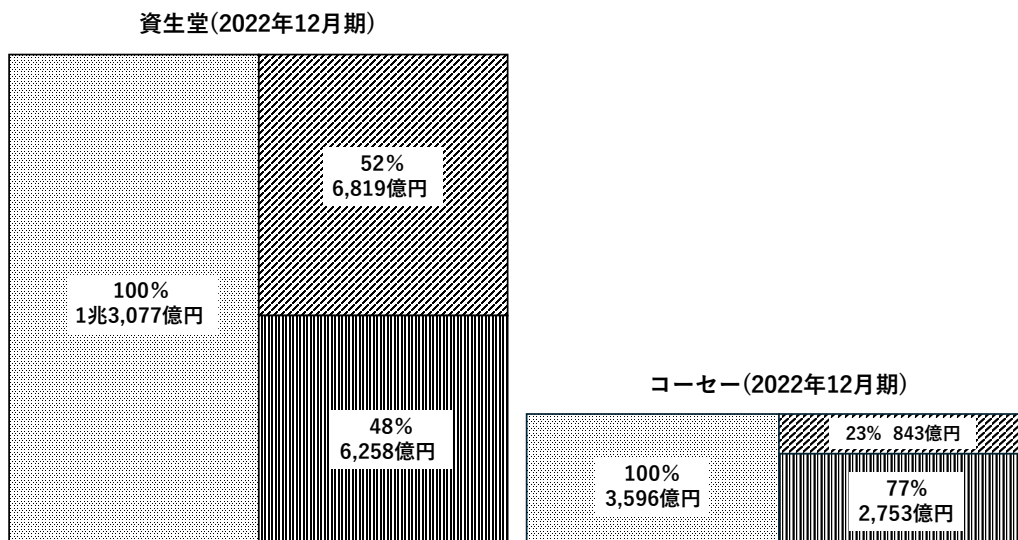


図 3 資生堂とコーセーの貸借対照表

自己資本比率とは、会社が持っている資産のうち自己資本、すなわち、返済の義務のない資産の割合を示している。自己資本比率を求める計算式は次のとおりである。

$$\boxed{\text{自己資本比率}} = \frac{\text{自己資本}}{\text{負債} + \text{純資産}} \times 100 (\%)$$

2.2で述べたように、会社の持つ資産には、銀行からの借金など返済する義務を負っている「負債」と、資産全体から負債を差し引いた、返済の必要のない「純資産」の二つに分けることができる。つまり、返済の必要がない「純資産」の割合＝自己資本比率が高い会社の方が、財務的な安全性が高い会社だと考えることができる。

そこで、資生堂とコーセーの自己資本比率を算定してみると、資生堂は47.9%、コーセーは76.6%となる。両社の自己資本比率を比較すると、コーセーが資生堂を上回っており、より安全性が高いといえる。

次に、損益計算書の項目を使って分析してみよう。資生堂の売上高は1兆673億円、営業利益は465億円（2022年12月期）、コーセーの売上高は2,891億円、営業利益は221億円（2022年12月期）となっている。

売上高営業利益率とは、売上高に対する営業利益の割合であり、次の計算式で求められる。

$$\boxed{\text{売上高営業利益率}} = \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100 (\%)$$

資生堂とコーセーの売上高営業利益率を算定してみると、資生堂は4.4%、コーセーは7.7%となる。売上高営業利益率が高いほど収益力が高いと判断できるため、コーセーの方が本業で利益を生み出す力が高いと評価できる。

最後に、貸借対照表項目と損益計算書項目を組み合わせた分析指標を紹介する。総資産営業利益率とは、総資産（＝資産）を活用し、いかに効率よく営業利益をあげているかという収益性を表す指標である。

$$\boxed{\text{総資産営業利益率}} = \frac{\text{営業利益}}{\text{総資産}} \times 100 (\%)$$

資生堂とコーセーの総資産営業利益率を算定してみると、資生堂は3.6%、コーセーは6.2%となる。総資産営業利益率が高いほど収益力が高いと判断できるため、コーセーの方が利益を生み出す力が高いと評価できる。

このように、会社としての安全性・収益性を、それぞれの会社が開示している財務諸表から読み解くことができる。なお、今回算定した指標については、すべてコーセーのほうが良いという結果になったが、これは資生堂が良くないということを意味しているわけではなく、コーセーがより良いということを示している。良いか悪いかを判断できるようになるためには、いろいろな会社の分析を行ってみることが大切である。是非皆さんも、気になる会社の財務諸表を調べてみよう。

調べてみよう

- 資生堂とコーセーの決算短信をそれぞれのホームページから入手し、どのようなことが記載されているか調べてみよう。
- 気になる会社の決算短信から、本章で学んだ指標を算定してみよう。

参考文献

大阪商工会議所 (2023) 『ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級 (第 5 版)』, 中央経済社.

株式会社コーセー「決算短信」<https://www.kose.co.jp/company/ja/ir/library/earnings/>
(2024 年 2 月 29 日最終閲覧)

株式会社資生堂「決算短信」<https://corp.shiseido.com/jp/ir/library/tanshin/> (2024 年
2 月 29 日最終閲覧)

(謝辞)

本稿は、2019 年度掛谷ゼミ卒業生および 2019 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部メンバーが作成したものをベースとして、2023 年度掛谷ゼミ卒業生と 2023 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部メンバーおよび担当教員掛谷純子が加筆修正を行ったものです。プロジェクトに携わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

2019 年度掛谷ゼミ卒業生 (五十音順、敬称略)

青井香奈実、伊賀春佳、石井翔子、伊勢菜々美、五日市藍、小野坂遥、駒井志美、三枝未歩、鈴木伽南、玉木直美、津崎祐里奈、中上美穂、橋本彩加、長谷川麻衣、藤井沙幸、森下愛、安井明日香、山木萌美、横内綾乃

2019 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部 (五十音順、敬称略)

大前遥香、川邊珠麗、村尾萌、森奈美子

2023 年度掛谷ゼミ卒業生の一部 (五十音順、敬称略)

池田亜佳音、井上結理

2023 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部 (五十音順、敬称略)

假屋咲衣、長谷川佳胡、原奈秀、本田彩乃、森泉里咲、芳倉洸子